

## ジオパークにおけるジオツーリズムの実態と課題

### —雲南石林ジオパークの事例—

肖 鋌<sup>1</sup>

#### 要旨

中国においては世界ジオパークの 33 地域を含む 186 地域のジオパークが存在する。ジオパークにおいてジオツーリズムの開発が重要である。本研究ではジオパーク活動の長い歴史を持つ中国雲南省の雲南石林ジオパークを事例にして、管理者と観光客のジオツーリズムに対する意識に注目することから、雲南石林ジオパークにおけるジオツーリズムの課題を解明することを目的とする。研究方法は雲南石林世界ジオパークの行政管理者、観光客がジオパークとジオツーリズムに対する意識の聞き取り調査およびアンケート調査である。それらの調査資料を分析し、ジオツーリズムの現状を把握して今後の課題を論じた。その結果、ジオツーリズムの展開は地元の経済に多大な貢献を与えているが、地域住民の参加が不足していることや自然環境が悪化していることなどの課題も出てきた。

キーワード：ジオパーク ジオツーリズム 雲南石林 変化 地理学

表 1 世界ジオパークの国別分布表

#### I. はじめに

ジオパークは地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園である。ジオパークの活動は、ユネスコの支援により 2004 年に設立された世界ジオパークネットワークにより世界各国で推進されている。2015 年 11 月 3 日から 18 日の日程で、フランスのユネスコ本部で開催された第 38 回ユネスコ総会において、それまでユネスコの支援事業として行われてきた世界ジオパークネットワークの活動が、「国際地質科学ジオパーク計画 (International Geoscience and Geoparks Program : IGGP)」としてユネスコの正式事業となった<sup>2</sup>。

世界ジオパークネットワーク(GGN)によると、2017 年 11 月現在、35 か国 127 地域がユネスコ世界ジオパークに認定され、その中で、中国は 33 か所、28%を占めるに至った(表 1)。

国名	数	国名	数
中国	35	韓国	2
スペイン	11	ブラジル	1
イタリア	10	ウルグアイ	1
日本	8	ベトナム	1
イギリス	6	アイルランド・北アイルランド	1
フランス	6	ルーマニア	1
ドイツ	5	クロアチア	1
ギリシア	5	チェコ	1
ポルトガル	4	フィンランド	1
オーストリア	3	デンマーク	1
アイルランド	2	ドイツ・ポーランド	1
ハンガリー	2	ハンガリー・スロバキア	1
ノルウェー	2	オランダ	1
インドネシア	2	スロベニア	1
アイスランド	2	スロベニア・オーストリア	1
カナダ	2	トルコ	1
マレーシア	1	キプロス	1
モロッコ	1	イラン	1
メキシコ	2		

資料：世界ジオパークネットワーク (<http://englobalgeopark.org/parkintroduction/index.htm> 2016 年 11 月 18 日閲覧)

中国は世界ジオパークネットワーク(GGN)が認定した世界ジオパークの数が最も多い国で、ジオパークの開発歴史が長い。ユネスコ事務局が2012年に「中国は先駆者であり、世界ジオパーク運動の推進力である」とコメントを出してきた(深見, 2013)。

日本において、最も早いジオパークに関する研究は2007年から始まった(柚洞, 2014)。その後は、ジオパークに関する研究成果は飛躍的増加し、2011年ピークになった。2012年～2013年は、論文の数が少し減ってしまったが、2014年以降はまた増加した(図1)。

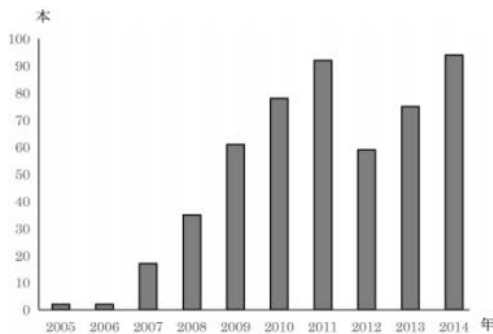


図1 日本におけるジオパークに関する研究論文数の変化

資料：CINIのデータより作成。

近年、ジオパークに関心を寄せる人が多くなって、今後、研究論文が増える傾向にある。ジオパークとジオツーリズムを研究している学者が多く、さまざまな視点からの研究成果が十分に蓄積できた。例えば、尾方(2011)は地形学の立場から、琉球諸島のジオダイバーシティとジオツーリズムについて議論した。今後、「一般市民のニーズも考慮して改善点を洗い出しながら、インタープリター養成のあり方を考えていく必要がある」と指摘している。一方、肖(2016)は、日本の苗場山麓ジオパークを事例にして、管理者とガイドのジオツーリズムに対する意識に注目することから、

ジオツーリズムの課題を考察した。結論として、「日本の行政機関によるジオパーク活動に対する支援がまだ十分ではない」という指摘した。

また、深見(2016)は、三島村・鬼界カルデラジオパークを研究対象にして、三島村役場及び島に暮らす住民に対する聞き取り調査を行った。その結果、「ジオツーリズムとはジオサイトの特徴を知りその保全意識の涵養へとつなげていく、地域が主体となった観光形態であることが明確になった」と指摘している。

しかし、日本において、中国のジオパークを扱った日本語論文は少なく、日本の事例と比較しつつ論じたものも少ないことの議論もある(深見, 2013)。日本では、「中国では、世界認定のジオパークが多く分布し、大地の遺産を積極的に活用することにより、ジオツーリズムにおいて大きな成果を上げている」という認識があった(深見, 2013)。

以上のことから、中国のジオパークを対象に研究することが必要だと考えられる。本研究では、雲南石林ジオパークを研究対象としてあげた。その理由として、中国のジオパークの中で、雲南石林ジオパークは最も古いジオパークの一つであり、ジオパークとジオツーリズムの開発の歴史も長いためである。カストル地形という特殊景観を有するものの、ジオパークとして代表的な事例であることが示唆され、雲南石林ジオパークへの行政管理者と観光者に対して行ったジオツーリズムの意識調査について考察を行うことは雲南ジオパークのみならず、中国のジオパーク全体に一つ方向性が示唆も有すると考えられるからである。しかも、日本のジオパークに対する示唆される可能性もあると考える。

本研究は、雲南石林ジオパークにおける行政管理者と観光客の意識に着目しており、ジオツーリズムの実態と課題を明らかにすることを目的とする。研究方法としては、まず、

雲南石林ジオパークの職員に対するジオツーリズムについて聞き取り調査を行った。次に、雲南石林ジオパークを訪問する観光客に対するアンケート調査を実施し、ジオツーリズムの活性化に対する複数の項目に対して5段階評価を行い、その結果を基にして分析を行った。2015年8月25日～27日にかけて中国雲南省に位置する雲南石林ジオパークにおいて調査を実施した。以下、論文の構成を提示する。まず、中国におけるジオパークの展開を振り返る(2節)。次に、雲南石林ジオパークの地理学特色を検討する(3節)。さらに、雲南石林ジオパークで実施した調査の結果を示す(4節)。最後に、現地調査により得られたデータを基にして、雲南石林ジオパークにおけるジオツーリズムの課題を示す(5節)。

## II. 中国におけるジオパークの展開

中国は地質遺産保護事業からジオパークの創立まで国連教育科学文化機関(UNESCO)、国際地質科学連合会(IUGS)と密接に協力して、世界中のジオパーク事業の推進に力を貢献している(潘ほか, 2006)。

1985年に中国の地質学者は地質科学意義が重要で、地質景観が優美な地域においてジオパークを創立、保護の強化、研究の推進を展開するという提案をした(潘ほか, 2006)。1987年7月に地質鉱物部は[1987]311号の公文「地質自然保護地区を創立する規定に関する通知(試行)」を配布し、初めて地質遺産を保護することを部門法規の形式で確定した(潘ほか, 2006)。1999年12月に国土資源部が山東省威海市で開催した「全国地質地形保護会議」はさらにジオパークを創立する事業を提案した(巢, 2014)。2000年4月3日に国土資源部の田鳳山部長は地質環境司のジオパーク事業の展開に関する意見に指示を与えた(巢, 2014)。引き続き、2000年に国土

資源部は[2000]86号の公文で「国家地質遺産(ジオパーク)の指導機関と人員構成に関する通知」を配布し、「国家地質遺産(ジオパーク)の審議委員会」を創立した。同時に関連する公文も配布され、国家地質遺産(ジオパーク)の審査機関が創立された(巢, 2014)これにより、国家ジオパークの申請手続き及び申告条件、審査基準を明確にした。2000年以来、中国の各省、自治区、直轄市は積極的に国家地質公園を申請し、186の国家地質公園が認定された(2016年9月まで)そのうち、33地域が世界ジオパークネットワークに認定された(図2)<sup>3</sup>。

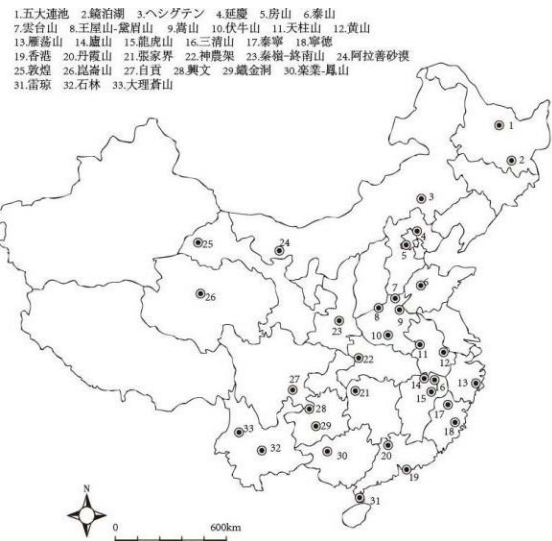


図2 中国における世界ジオパークの分布  
 資料：世界ジオパークネットワークの資料より。  
 (http://cnglobalgeopark.org/parkintroduction/index.htm 2016年11月18日閲覧)

## III. 雲南石林ジオパークの地理的特色

雲南石林ジオパークは中国雲南省昆明市石林彝族自治州内に位置する。海拔は1,500～1,900mで、350km<sup>2</sup>のカルスト地形が独特な自然の風景を構築している。主に大小石林、乃古石林、芝雲洞、長湖、大壘水瀑布、月湖

などの 7 か所の観光エリアに分かれている (図 3) .

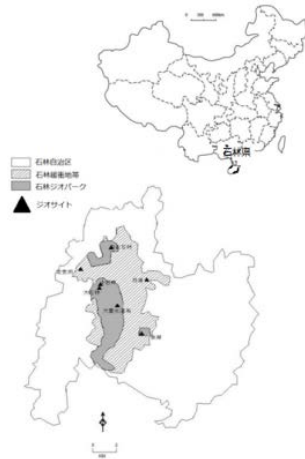


図 2 研究対象地域

資料：雲南ジオパークのガイドブックより作成。

### 図 3 研究地域

資料：現地調査の資料より。

1930 年代, 国内外の研究者は石林とイ族文化に対する研究を始めた. 1931 年に雲南石林ジオパークの建設が始まり, 石林は 1982 年に「中国国家クラス風景名勝区」, 2002 年に「中国国家ジオパーク」, 2004 年にはユネスコの「世界ジオパーク」に認定された. 国務院が 1987 年に実施した「石林風景名勝区の総体計画」により, 石林風景名勝区の保護する範囲を 350 km<sup>2</sup> を明確にした. そのうち, 1 級の保護区 (核心観光地区) は 1, 576 km<sup>2</sup>, 2 級の保護区は 2, 814 km<sup>2</sup>, 3 級の保護区は 30, 610 km<sup>2</sup> である. 更に石林の景色資源を保護するために, 2002 年に「石林風景名勝区の総体計画」を修正を行い, 保護区の範囲を拡大した. 新しい計画により, 1 級の保護区は 6, 994 平方キロメートル, 2 級の保護区は 12, 161 km<sup>2</sup>, 3 級の保護区は 11, 343 km<sup>2</sup>, 増設する科学考察, 研究専用特別保護区は 4, 502 km<sup>2</sup> である.

雲南石林ジオパークの石林カルスト地形はほぼすべてのタイプのカルスト地形を有している.

石林カルスト地形の形態がよく変わり, 鑑賞価値がある. しかも他のタイプのカルスト地形もあり, 典型的なくぼみ地型のカルスト地形, 谷地型のカルスト地形, 地下カルスト地形及び泉と滝など, これらは石林カルストと組み合わせさったり, 互いに照り映えたりして, 1 枚の多彩で, 盛観を呈しているカルスト地形の全景図を構成して, 「世界カルスト博物館」を称する (写真 1) .



写真 1 雲南石林ジオパーク

(2015 年 8 月に筆者撮影)

歴史奇観を称する雲南石林は, 年平均気温は摂氏 16 度ごろ, 夏季は涼んで, 第一級の避暑地で, 世界で唯一の亜熱帯高原地区に位置するカルスト地形景勝地である. 雲南石林ジオパークは, 少数民族のイ族の起源地である. ここに住んでいるイ族の人間は歌も踊りも上手で, 更に「アシマ」<sup>4</sup>の文化を創造し, ジオパークに歴史文化を添えている. 同時に, 雲南石林ジオパークは大量の古脊椎動物の化石があって, 研究・調査の価値が高く, そのため

中国の古脊椎動物化石の保護区となっている。雲南石林ジオパークは美しい自然な景色、強烈な人文文化を持ち、地元の風土、文化と大きな関連性を持っている。歴代のイ族サニ人は長く続く歴史文化を創造し、「アシマ」を代表する多彩な民間の文化芸術を創造し、内容が豊富で、人を陶醉させる。

雲南石林ジオパークでは、現在すでに開発したジオサイトは、98%以上の観光客が大小石林景勝地に集中して、その他の観光地域がある程度に開発されて、資源も良いが、まだあるべき観光の収益を發揮していなくて、多数は開発不十分状態である<sup>5</sup>。

石林ジオパークは地元の人間にとっては、豊富な観光資源であり、すでに地元の経済発展の動力となっている。それ以外に、政策、経済構造の問題と自身の能力などの制限で、いくつか利益の関連者は観光業の参加度が高いが、コミュニティの参加は極めて強く制限された。現地の少数民族の優秀な伝統手作り製品の刺繍及び一部の初級補助性の業界以外、石林の観光地区の農村コミュニティの住民が参加する観光業のサービスの領域は主にホテル、飲食店、ガイド、民族の歌と舞踊の公演、清掃業と緑化などに集中した<sup>6</sup>。世界ジオパークネットワーク(GGN)が強調した「地元の人が企画・実行」することは殆どない状態である。現地の住民(特に少数民族の住民)が観光業の主流に入るのは難しい。

#### IV. 調査の結果

##### 1. 調査方法

本研究では、二段階による調査を実施した。第一段階目の調査は、2015年8月23日に雲

南石林自治県観光局と石林ジオパーク管理委員会の職員(中国人、12名)を対象として、聞き取り調査を実施した<sup>7</sup>。この調査によって、雲南石林ジオパークの行政管理側から様々なアイデアが抽出された。第二回目の調査では、2015年8月24日~26日に雲南石林ジオパークの観光客を対象にして、ジオパーク内部の化石博物館館内で実施した。調査方法としては、調査場所で調査票を配布し、その場で記入をして頂き、質問があればその場で受け付けることにした。ただし調査場所で時間がない回答者も少なかった。その結果、配布数は300であった。また、回収数は223であり、回収率は74%であった。

##### 2. 職員への聞き取り

聞き取り調査では、合計12名の職員をインタビューした。まず、属性に関する質問以外に「雲南石林ジオパークの観光客が増えることで、自然環境へ負荷が指摘されつつあります。あなたは入園規制がなされるべきだと思いますか」の質問を行い、行政管理者側の意識を分析することとした(雲南石林ジオパークについて質問1)。質問に対する回答結果は以下ようになった(表2)。

表 2 雲南石林ジオパークについて質問 1

	回答数	回答率 (%)
強く思う	4	33.3
思う	5	41.7
あまり思わない	2	16.7
全く思わない	0	0
どちらでもない	1	8.3
合計	12	100

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

表 3 雲南石林ジオパークについて質問 2

	回答数	回答率 (%)
強く思う	1	8.3
思う	5	41.7
あまり思わない	3	25
全く思わない	2	16.7
どちらでもない	1	8.3
合計	12	100

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

「雲南石林ジオパークの観光客が増えることで、自然環境へ負荷が指摘されつつあります。あなたは入園規制がなされるべきだと思いますか」の質問について、半分以上の職員が「強く思う」または「思う」と回答しており、管理者がジオパークの自然環境に大切にしたい気持ちがわかった。

次に、「近年、雲南石林ジオパークは雲南省内ほかの観光地を比べると魅力が下がる傾向を見いだすという指摘がある。あなたはそう思いますか」を行った（雲南石林ジオパークについて質問 2）。質問に対する回答結果は以下ようになった（表 3）。

表 3 は、「近年、雲南石林ジオパークは雲

南省内ほかの観光地を比べると魅力が下がる傾向を見いだすという指摘がある。あなたはそう思いますか」に対する回答である。この質問にたいして、「強く思う」と「思う」が 60%、「あまり思わない」が 25%と、同意的意見が過半数を超えた。このことは、雲南石林ジオパークの管理側が観光の危機意識を持っていることが分かる。

3. 観光客へのアンケート調査

以下では、アンケート調査の結果に関して、集計の結果を説明する。回答者の性別は「男性」が 102 名(45.7%)、「女性」121 名(54.3%)となっており、ほぼ同数であった。

表 4 は、回答者の年齢を示した。「40 代」、「30 代」が多く、それぞれ 62 名 (27.8%)、55 名 (24.7%) であった。次いで「20 代」の 46 名 (20.6%)、「50 代」の 26 名 (11.7%) となった。「10 代」は 12 名 (5.4%)、「70 代」は 6 名

(2.7%) となり、これらの回答は少なかった。回答の結果から、世界ジオパークを「知っていた」が 83 名 (38.8%)、「知らなかった」が 131 名 (61.2%) である。世界ジオパークの認定については、マスメディアを通じて大きく報道されたことから、比較的認知度が高い結果となった。ただし、まだ認知状況としては過半数の回答者が「知らなかった」と回答していることから、さらに広報をする必要がある。

表 4 回答者年齢

項目	回答数	回答率 (%)
10 代	8	3.8
20 代	36	17
30 代	55	25.9
40 代	62	29.2
50 代	26	12.3
60 代	19	9
70 代及び以上	6	2.8
合計	223	100

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

表 5 は世界ジオパークの認知手段の結果である。上述の「知っていた」と回答した回答者に限定して質問を行った。その結果、「テレビ・ラジオ」が 33 名(39.8%)、「新聞・雑誌」が 23 名(27.7%)、「昆明駅」が 12 名(14.5%)、「昆明長水空港」が 8 名(9.6%)、「インターネット」が 5 名(6%)であった。この結果を見ると、マスメディアの影響が大きいことが分かる。ただし、今後はマスメディアで取り上げられることが少なくなる可能性がある。その点を考えると、世界ジオパークの PR の一つの方法としては、昆明市の玄関となる昆明駅と昆明

長水空港で行うことが重要になって来ると考えられる。昆明駅には世界ジオパークの登録に関するポスターは貼られているが、駅の出口の広報壁にあるだけで、それ以外についてはあまり目立っていない。また、駅と空港に限らず市内のさらに多くの場所で、ポスターを貼るなど等して、世界ジオパークをより積極的に広報を行うことが望ましいと考えられる。



表 5 世界ジオパークの認知手段の結果

項目	回答数	回答率 (%)
テレビ・ラジオ	33	39.8
新聞・雑誌	23	27.7
昆明駅	12	14.5
昆明長水空港	8	9.6
インターネット	5	6
その他	2	2.4
合計	83	100

(出所) 2015年8月の調査結果より筆者作成。

表6には、雲南世界ジオパークを訪問の目的を示した。この回答は複数回答可能な項目である。予想通り、最も多い回答は「観光」であり、113名(45.7%)となった。「化石の見学」は56名(22.7%)であった。本研究の調査は、化石資料展示館内で実施したが、必ずしも回答率が高くない。その次に多い回答は「避暑」45名(18.2%)である。調査期が、学生の夏

休であったので、このような回答となった。「仕事」は12名(4.9%)と高くないが、一つの目的となっていることがわかる。「イベント参加」は10名(4%)であり、イベントが8月下旬にはピークが終了しているが、こちらも一定割合がその目的となっていることが分かる。それ以外の項目については、回答率が0.8%以下となった。

表 6 雲南石林ジオパーク訪問の目的

項目	回答数	回答率 (%)
観光	113	45.7
化石の見学	56	22.7
避暑	45	18.2
仕事	12	4.9
イベント参加	10	4
ボランティア	6	2.4
調査	3	1.2
その他	2	0.8
合計	247	100

(出所) 2015年8月の調査結果より筆者作成。



表7は、雲南石林ジオパークでの訪問地(ジオサイト)を示した結果である。この質問についても複数回答可能となっている。なお、前述したように、調査場所が化石博物館であることから、化石博物館を訪問地としては含めていない。最も多い回答が「大石林」であり、

203名(91.9%)であった。次いで「小石林」の186名(84.2%)、「乃古石林」の85名(38.5%)、「芝雲洞」の54名(24.4%)となった。「長湖」は34名(15.4%)であった。予想通り一番人気高い観光地は「大石林」であることが分かる。

表7 雲南石林ジオパークでの訪問地

項目	回答数	回答率 (%)
大石林	203	91.9
小石林	186	84.2
乃古石林	85	38.5
芝雲洞	54	24.4
長湖	34	15.4
大壘水瀑布	24	10.9
月湖	16	7.2
標本数	221	

(出所) 2015年8月の調査結果より筆者作成。

表8は回答者の同行者の属性を示した。この質問は、複数回答可能である。最も多い回答が「家族」であり132名(60.6%)であった。次いで「友人・知人」が43名(19.7%)であった。「学校・会社などの団体」は28名(12.8%)

であった。今回の調査の回答者の旅行形態は、「個人旅行」が最も多かった。また、調査時期が夏休みということもあり、同行者については「家族」が最も多い結果となった。

表8 回答者の同行者の属性

項目	回答数	回答率 (%)
家族	132	60.6
友人・知人	43	19.7
学校・会社などの団体	28	12.8
一人	12	5.5
その他	3	1.4
標本数	218	

(出所) 2015年8月の調査結果より筆者作成。

表 9 は、観光客の宿泊先を示している。「昆明市のホテル」が 106 名(48.8%),「石林県のホテル」が 42 名(19.4%),「ジオパーク近くのホテル」が 31 名(14.3%)であった。これらを合計

すると、8 割以上の観光客が現存の宿泊施設に宿泊していることがわかる。その他については、車との回答者が 5 名と最も多かった。

表 9 観光客の宿泊先

項目	回答数	回答率 (%)
昆明市のホテル	106	48.8
石林県のホテル	42	19.4
ジオパーク近くのホテル	31	14.3
民宿	17	7.8
家族親友の家	15	6.9
その他	6	2.8
合計	217	100

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

表 10 には、宿泊施設の満足度を示した。この質問は、表 9 の質問で「旅館・ホテル」または「民宿」と回答した個人に質問を行った。「大変満足した」が 32 名(16.2%),「満足した」

が 95 名(48.2%)であった。これらを合計すると、約 7 割の観光客が満足をしていたことになり、ある程度は高い評価となっている。

表 10 宿泊施設の満足度

項目	回答数	回答率 (%)
大変満足した	32	16.2
満足した	95	48.2
どちらとも言えない	53	26.9
満足しなかった	12	6.1
全く満足しなかった	5	2.5
合計	197	100

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

表 11 は、ジオツーリズムの満足度を示したものである。「大変満足した」が 53 名(24.8%),「満足した」が 126 名(58.9%)であった。これ

らを合計すると、8 割以上の回答者が満足をしていたことになる。表 8 の宿泊施設の満足度と比較すると、高い割合になっている。

表 11 ジオツーリズムの満足度

項目	回答数	回答率 (%)
大変満足した	53	24.8
満足した	126	58.9
どちらとも言えない	32	15
満足しなかった	3	1.4
全く満足しなかった	0	0
合計	214	100

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

最後に、「その他、雲南石林ジオパークにおけるジオツーリズムについて、その可能性や期待など、ご意見がありましたらお聞かせください」という項目について、以下のよう  
な記述があった(表 12)。

表 12 自由意見について

年齢 (歳)	性別	意見
43	男性	ジオパークを訪れるとき、十分に地域に住んでいる方々と話し合い、ゆっくりじっくりされてはどうかと思います。
52	女性	せっかく雲南省に来たので、少数民族の暮らしを体験したい。
17	男性	雲南石林ジオパークを訪問したのは初めてなのですが、あまり面白くなくて、今度雲南省にくると他の名勝地へ行きたい。
34	女性	園内には、山のところにゴミがあり、気持ちが悪くなった。
23	女性	ジオパークを見学する際に、ジオサイトについて少し科学的な説明があったらいいなあと思います。
56	男性	ジオパークの現状と問題点、これからのジオパークの自然資源保護に当たっての問題点の整理を深める過程が重要だと思う。
32	女性	ジオパークにある博物館は面白い。
40	男性	自然環境の保全が一番重要である。

(出所) 2015 年 8 月の調査結果より筆者作成。

「その他、雲南石林ジオパーク ジオツーリズムについて、その可能性や期待など、ご意見がありましたらお聞かせください」の質問について、観光客にとって、ジオガイドが必要だという意見が現れた。ここに注目したい回答は、地域住民との交流という希望である。雲南石林ジオパークを訪れる観光客について、80%以上は漢族の人であり、少数民族の暮らしに対する深い興味を持った。しかし、雲南石林ジオパークには、直接に少数民族の人との交流の場を設けていない。

表 13 ジオツーリズム活性化に関する観光客の評価

項目	平均値
ジオパークの自然環境を保全する	4.36
ジオパーク内部の電動車の運賃を値下げする	4.31
昆明市内からのバス運行本数を増やす	4.28
ジオパーク内部の公衆トイレを整備する	4.16
ジオパークの入園規制を実施する	4.13
ジオパークの職員を増やす	4.05
ジオサイトを分かりやすく科学的な解説	4.02
旅館・ホテル・民宿で美味しい食事を提供する	3.98
旅館・ホテル・民宿の接客態度を向上させる	3.96
これまで以上にジオパークを PR する	3.86
体験学習コースを開発	3.86
彝族の文化を活用する	3.78
ジオパーク関連商品の開発	3.76
団体客に過度に依存せず、個人客をさらに重視する	3.75
修学旅行を積極的に誘致する	3.72
新たなイベントを作る	3.68
自然エネルギーの利用を高める	3.68
行政に若い人材を数多く採用する	3.65
旅館・ホテル・民宿で地元の食材を観光客に提供する	3.64
多くの場所にゴミ箱を設ける	3.64
娯楽施設を整備する	3.63

(出所) 2015年8月の調査結果より筆者作成。

表 13 は、ジオツーリズムの活性化方法に関する訪問者の評価を示したものである。各項目については、「特に効果が大きい」から「特に効果が小さい」までの5段階評価とした。「特に効果が大きい」を5、「効果が大きい」を4、「どちらともいえない」を3、「効果が小さい」を2、「特に効果が小さい」を1と便宜的に点数を与え、その算術平均を計算した結果である。最も高い評価となった項目は、「ジオパー

クの自然環境を保全する」であり、評価の平均値は4.36となった。次いで、上位5位までを述べると、「ジオパーク内部の電動車の運賃を値下げする」の平均値は4.31、「昆明市内からのバス運行本数を増やす」が4.28、「ジオパーク内部の公衆トイレを整備する」が4.16、「ジオパークの入園規制を実施する」が4.13であった。

「ジオパーク」に関する項目は、上位にあ

るものが多く、前述したもの以外には、「ジオパークの職員を増やす」が4.05、「ジオサイトを分かりやすく科学的な解説」が4.02である。以上のことから、ジオパークの経営・管理レベルの向上が、ジオツーリズムの活性化に大きく寄与することが示唆されている。

また、交通に関連することとして、前述した「ジオパーク内部の電動車の運賃を値下げする」が4.31、「昆明市内からのバス運行本数を増やす」が4.28である。2015年8月の時期に、雲南石林ジオパーク内部の電動車は、ジオパークの玄関から小石林までの運賃は往復で1,200円（所要時間は20分）である。この運賃は当地の物価と比べると少し高いと感じられる。また、雲南省の観光客は昆明市に集中している。昆明市から石林ジオパークまで自動車でも1時間半かかり、バスの数は多くない。この状況が観光客の訪問の妨げになっている可能性がある。

そのほか、「旅館・ホテル・民宿で美味しい食事を提供する」は3.98、「旅館・ホテル・民宿の接客態度を向上させる」は3.96と比較的高かった。このことから、ことから、旅館・ホテル・民宿での食事やサービスの費の向上が、ジオツーリズムに影響を与えることが分かる。

## V. 考察—雲南石林ジオパークにけるジオツーリズムの課題—

この節では、雲南ジオパークの行政管理側の職員に対する聞き取り結果と表10に示した観光客から質問項目に対する5段階評価の結果を用いて、行政者の意識と観光者の意識からジオツーリズムの課題を探ることを試みる。

現在、雲南石林ジオパークを訪れる観光客は絶えず増加しており、名勝としての人気を高めている。しかしジオパークの主要な責任者は、一方では上役から収入増加の圧力を受

け取って、より売上げを上げるための努力をする。一方ではジオパークの環境保護と生態のバランスを考慮しなければならない<sup>8</sup>。

これらは必ずある程度対立するが、この対立を適切に解決して、ようやく観光地区のエコツアーの持続可能な発展を促進することができる。単純に利潤を追求して、観光を制限しなければ、観光客は絶えず増加し、ジオパークの空気も悪化して、観光地域に多大な負担をもたらす、自然環境がある程度の破壊を受ける。

地質観光資源の保護と保存はジオツーリズムの持続的な発展が実現する基礎と前提である。中国では、ジオパーク普段は観光の名所として存在している。しかし名所の開放程度が絶えず増大するのに従って、観光客の人数は絶えず増加し、すべての自然保護区の建物を建てなければならぬ、より多くのインフラも建設しなければならない。これも元自然資源の面積を占用して、もとの自然環境を破壊する。たとえば雲南石林ジオパークにおけるいくつかのホテルが建てられ、これらのプロジェクトは直接に生態環境に影響して、多くの商業イベントが観光地区に関与し始め、必ずある程度負担が観光地区に押し掛かる。

近年以来、雲南石林ジオパークは、観光客の数と観光収入が毎年増加しているが、しかし増幅の変動が大きい。観光客は雲南省の観光名勝を話すと、一番イメージな場所は麗江、次はシャングリラである。麗江、シャングリラなどの新興観光地の高速発展の勢いに比べて、雲南石林ジオパークの観光産業の発展は遅くて、優位は弱くなり、雲南省と中国中西部地区で旅行する第一級目的地としての地位が下がった。雲南石林ジオパークのブランドを維持するのはすでに緊急の課題になり、観光イメージを再建設は、雲南石林ジオパークの持続的な発展のための一番重要なことだ。

以上のことから、今後、雲南石林ジオパー

クにおけるジオツーリズムの課題としては、まず、雲南石林ジオパークの生態環境の悪化という問題がある。雲南石林ジオパークの観光事業は活気があふれていて、週末と短い休暇期間にも人の流れのピークを迎えている。石林ジオパークの観光客は2007年の260万人から2014年に335万人まで増加した<sup>9</sup>。観光客の数が絶えず増加して観光地区内部の交通機関の使う頻度も急激に増加している。このような状況で旅行地に空気汚染、騒音汚染と水質汚染を激化させている。雲南石林ジオパークも例外ではなく、特にゴールデンウィークと旅行最盛期には、直接に静かで心地良い自然の景観を騒がしくさせて、観光地区内部に生態環境の良性循環ができていない。

また、観光客の環境を保護する意識の強化である。観光客のなかにはジオサイトに関連する規則、制度を守ることができず、気の向くままに岩石にぶつかり、甚だしきに至ってはむやみに落書きする人もいる。これらの観光客のひどい行為は、すべて彼らの自然環境と景観を保護する意識が浅薄なためである。

これらの行為は雲南石林ジオパークの正常な管理、生態系の保護、持続可能な発展に悪影響を与えており、完全にジオツアーと矛盾したものである。

さらに、ジオガイドの育成事業である。雲南石林ジオパークでは、すべてのガイドが雲南イ族の衣装を着ており、これは石林ジオパークの魅力の一つである。実際にガイドに聞いてみると、すべてのガイドはイ族の人わけではなくて、漢族の人もかなりいる。殆どのガイドは観光客に向けてジオパークを説明する際、主に神話のストーリー及び歴史伝説に集中しているが、ジオに関する科学知識は殆ど触れていない。それに対して、雲南石林ジオパークを訪れる観光客の多くは、観光を楽しむ同時に自分の科学知識を増やす意欲を持

っている<sup>10</sup>。ジオパークのガイドの説明はジオパーク教育システムにおいては中核に位置しているが、今のガイドはジオに関する専門知識が足りない。この状況は石林ジオパークだけではなく、中国の別のジオパークでも同じ状況である。中国では、観光ガイドは国家資格試験を受けなければならない。中国のガイド育成制度により、国家ガイドの統一資格試験の目標は普通の観光ガイドを育成することで、試験の内容はジオパークに関するジオ知識が少ないである。今後、国家あるいは各ジオパーク独自でジオガイドの育成事業を展開する必要がある。

最後に、調査から明らかになった課題として、雲南石林ジオパークの経営管理レベルを高めること、ジオパークへの交通システムの整備することも出てきた。

## VI. おわりに

本研究は、雲南石林ジオパークを事例とした聞き取り調査およびアンケート調査をとおして、ジオツーリズムの実態と課題を把握することを目的に論を進めてきた。その結果、中国では、ジオパークを訪れる観光客は多く、ジオパーク所在の町の経済成長を促進し、同時に自然環境、生態保全の悪化という厳しい課題をもたらした。

雲南石林ジオパークは地元の政府を観光資源として開発し、地域経済の発展と密接に関わっている。逆に、地域住民はジオパーク開発との関わりが少ない。中国ジオパークは政府主導で、地域住民はジオパーク活動の参与が少ないという指摘もある(深見, 2014)。ジオツーリズムにおける地域住民の参与はどのようにすればよいのかについては、今後の課題にしたい。

謝辞

本稿は、北海道地理学会平成 28 年春季学術大会（北海学園大学，2016 年 6 月 26 日）での研究発表をベースに、加筆・修正したものである。本研究は中国国家留学基金管理委員会「国家建設高水平公派研究生項目」の支援による研究成果の一部である。お忙しい中、本研究にあたり聞き取り調査にご協力いただきました雲南石林ジオパーク管理委員会のみなさま、また調査の協力をいただいたみなさまに深くお礼を申しあげる。

脚注\*

- 1 肖銀，中国湖北文理学院外国語学院専任講師，北海道大学大学院文学研究科博士後期課程在籍。
- 2 国連ユネスコ世界ジオパークネットワークのホームページによる。(http://cnglobalgeopark.org/parkintroduction/indexhtm 2016 年 11 月 18 日閲覧)
- 3 国連ユネスコ世界ジオパークネットワークのホームページによる。(http://cnglobalgeopark.org/fytt/distribution/6493htm 2017 年 11 月 18 日閲覧)
- 4 イ族の美しい女性のことを阿詩瑪という。映画にもなった阿詩瑪とは、叙事詩として語り継がれる美しく勇敢な伝説の少女の名で、その名自体がイ族の女性のことを意味するようになった。アシマの姿はこの岩となり、その声は木魂として、山に語りかけるとアシマが答えてくれるとされている。この岩はイ族の帽子に、背中に籠を背負った女性の姿である。
- 5 2015 年 8 月 27 日の雲南石林観光局職員への聞き取り調査より。
- 6 2015 年 8 月 27 日の雲南石林観光局職員への聞き取り調査より。
- 7 質問内容に関して、ジオツーリズム以外に、化石の保全、交通システムなどを質問してい

る。

- 8 2015 年 8 月 26 日に雲南石林ジオパーク管理委員会の職員への聞き取り調査より。
- 9 2015 年 8 月 26 日に雲南石林ジオパーク管理委員会の職員への聞き取り調査より。
- 10 2015 年 8 月 27 日の雲南石林観光局職員への聞き取り調査より。

\*参考文献

- [1] 布山裕一『温泉観光の実証的研究』御茶の水書房，2010
- [2] 深見 聡『ジオツーリズムとエコツーリズム』古今書院，2014
- [3] 横山秀司「ジオツーリズムとは何か」総合観光学会『観光まちづくりと地域資源活用』同文館出版，2010，115-129
- [4] 岩松 暉「今なぜジオパークか」『地質ニュース』635，2007，8-14
- [5] 尾方隆幸「琉球諸島のジオダイバーシティとジオツーリズム」『地学雑誌』120(5)，2011，846-852
- [6] 河本大地「ジオツーリズムと地理学発「地域多様性」概念—「ジオ」の視点を持続的・地域社会づくりに活かすために—」『地学雑誌』120(5)，2011，775-785
- [7] 菊地俊夫・有馬貴之「オーストラリアにおけるジオツーリズムの諸相と地域振興への貢献」『地学雑誌』120(5)，2011，743-760
- [8] 鈴木晃志郎「ダークツーリズムの視角からみたジオパーク，ジオツーリズムの可能性」『E-journal GEO』9(1)，2014，73-83
- [9] 肖 銀「テキストマイニングによるジオパーク研究動向の分析—日本のジオパークに関連する文献 2005~2014 年を中心に—」『人間生活文化研究』26，2016，504-507
- [10] 肖 銀「苗場山麓ジオパークにおけるジオ



- ツーリズムの展望—日本と中国の比較から— 津南学』5, 2016, 180-181
- [11] 肖 鋌「日本のジオパークにおけるジオツーリズムの現状と課題—苗場山麓ジオパークを事例に—」『北海道大学文学研究科研究論集』16, 2016, 231-243
- [12] 田邊 裕『ジオパークに望むこと—人文地理の立場から地理』53(9), 2008, 55-57
- [13] 深見 聡「ジオパークとジオツーリズムの展望—日本と中国の事例から—」『人文地理』65 (5), 2013, 58-70
- [14] 深見 聡「三島村・鬼界カルデラジオパークのジオツーリズム」『島嶼研究』17 (2), 2016, 1-19
- [15] 柚洞一央・新名阿津子・梶原宏之・目代邦康「ジオパーク活動における地理学的視点の役割」『E-journal GEO』9, 2014, 13-25
- [16] 楊 燕・深見 聡「中国のジオパークにおけるジオツーリズムの現状と課題:伏牛山世界ジオパークの事例から」『地域生活学研究』4, 2013, 12-24
- [17] Dowling, RK『Geotourism's global growth Geoh heritage』3 (1), 2011
- [18] Khoshraftar, R「Global network of geoparks Rasht」『Hagh Shenan Publication』2012, 21
- [19] Joyce, EB「Geomorphological Sites and the New Geotourism in Australia」『Geological Society of Australia』2006
- [20] Farsani, NT, Coelho C and Costa, C「Geotourism and geoparks as novel strategies for socio-economic development in rural areas」『International Journal of Tourism Research』13 (1), 2011, 68-81
- [21] Hose, TA「Selling the story of Britain's stone」『Environmental Interpretation』10 (2) 1995, 16-17
- [22] Newsome, D and Dowling, R K「The scope and nature of geotourism」『Elsevier Butterworth-Heinemann』2005, 5-6
- [23] Newsome, D, Moore, S and Dowling, R K「Area Tourism : Ecology Impacts and Management」『Channel View Publications』2012, 26-27
- [24] Robinson, A, M「Geotourism : Who is a Geotourist」『Australia's 1st Conference on Green Travel & Climate Change is taking Shape』2008, 1-12
- [25] 孙克勤:《地质旅游》, 地质出版社, 2011, 6-7
- [26] 陈安泽:《旅游地学大辞典》, 科学出版社, 2013, 2-4
- [27] 巢志众:《江西省地质公园申报与建设》, 《江西地学新进展江西省地质学会成立五十周年学术年会论文专集》, 2014, 56
- [28] 潘 健・李海龙・胡能勇:《论国家地质公园建设》, 《国土资源导刊》, 2006 (03)